

## 第3分科会第1回会議の協議等の概要

平成22年7月30日  
第3分科会事務局

1. 日 時：平成22年7月21日（水）13時30分～16時45分
2. 会 議 名：JA都市農村交流全国協議会 第3分科会
3. 出 席 者：資料記載
4. 場 所：JA全中36F会議室

（\*個人情報保護の一環として、発言者のJA名・役職・氏名等は掲載してありません）

### <協議内容>

#### （1）挨拶並びに事務局説明

- ・ 3月に発足したJA都市農村交流全国協議会の具体的な取組みとして新たな取組みを始めるJAを対象に送り出し、受け入れを含めた4分科会を設けた。
- ・ 本分科会はJA子ども農山漁村交流プロジェクトの取組みを中心とした課題抽出と問題解決のための分科会として位置づける。
- ・ 将来の農村で安心して暮らせる地域づくりには厚生事業と旅行事業が必要であり、2つには今後拡充・拡大の余地が大いにある。
- ・ 第3分科会は子ども受け入れを中心となるが、全ての受け入れの基本となり重要な位置づけである。問題解決に当たり参集者の協力をいただきたい。
- ・ 「設立の目的と現状」、「分科会設置の目的とスケジュール」、「都市農村交流の位置づけ」について事務局から説明。

#### （2）各出席者の紹介等（発言者順）

##### ① 出席者1

##### 【紹介等】

- ・ 当市では観光協会が受け入れ業務をしている。近年、外国（中国・韓国）からの受け入れが多くなっている。親子の受け入れをして改めて子どもに対するし付けのあり方も勉強のひとつとなっている。
- ・ 都市生活者は、援農を含めた役割を意識した行動が目立っている。JAとしては受け入れをする使命がある。都市農村交流はきれいごとでなく、国民運動して展開する必要がある。
- ・ 学校からの要望の中で、“世の中、地域に貢献できることはないですか”など社会・地域に貢献している学校の特徴を出す目的で林間学校を実施している私学もある。

② J A 出席者①

- ・ 5年前から本格的に受け入れを開始した。子どもの交流プロジェクトも地元山村留学を受け入れ組織と協力して受け入れ組織を立ち上げた。今年10月に県庁所在地の小学校の民泊で受け入れ予定である。農協観光のGT支店と連携し、小学校の受け入れも行っている。又農商工連携による緊急雇用促進事業も本年度受注し人材育成事業にも携わった。

③ J A 出席者②

- ・ 1市3町が合併した。市と連携して子ども農山漁村交流プロジェクトの事務局は2年目になる。修学旅行の受け入れが90%子プロの受け入れはわずかである。JA 単独での受け入れを今後できるよう準備していきたい。

④ J A 出席者③

- ・ 当市は水田地帯の町である。
- ・ GT 事業は初めて6年になるが殆ど修学旅行の受け入れをしている。年間4千名ほどの人員になる。後は県庁所在地から中学生が農業体験に来ている。
- ・ 営農経済部で勤務し、個別補償制度を担当していた。小さな町なので行政と一緒に受け入れ協議会の運営をしている。JA からは女性1名を出向させている。
- ・ グリーンツーリズムを理解していない、学校と父兄が多い。しかしJA に対する信頼度はあると思う。
- ・ 200戸の農家民泊の登録がある。次年度以降の対応として、短期（1泊）の受け入れは遠慮したい。本来の農村体験は1泊ではできない。

⑤ JA 全国組織 1

- ・ 私は都市農村部出身であり、学校のPTA の仕事も数年している。田んぼの生き物調査を実践している。県下9JA で実施した。
- ・ 調査後分析し、学校の出前事業に活用している。
- ・ 子どもたちの無邪気さを改めた感じた。
- ・ 子ども交流プロジェクト活動は興味がある。是非皆さんと勉強したい。

⑥ 中央会 1

- ・ 地元国立大学に観光学部はできているものの、去年は教育学部との係わり合いを持って活動した。今年度は契約書を交わし授業2単位が獲得できるよう観光学部との連携をしていきたい。
- ・ 県下JA 農業体験では紀の里、紀南など受け入れをしている。
- ・ 日帰りの体験は多く、子ども交流プロジェクトの活動は活発ではない。

⑦ 中央会 2

- ・ 子ども交流プロジェクトに関しては、実態として進んでいない。  
行政との橋渡しとして2年間活動している。
- ・ 事務局は行政サイドで進めることに違和感がある。
- ・ 地元の JA との協議会のかかわりは希薄である。
- ・ 今後役割を理解し進めていきたい。

⑧ JA 全国機関 1

- ・ 会として協力していきたい。

⑨ ㈱農協観光・社団全国農協観光協会

- ・ JA 子ども交流プロジェクトと3省が進める子ども農山漁村交流プロジェクトの違いを明らかにし、支援協力をしていきたい。
- ・ 子ども農山漁村交流プロジェクトの地域5ブロックの事務局に携わっている。
- ・ 今年は事業仕分け後、文科省の交付金要領が変更となって事業進捗していない
- ・ 学校側へのアプローチと同様、PTA・保護者に対する情報提供並びに働きかけが必要だ。
- ・ 社団法人として都市農村交流を実践している。
- ・ 学校側に対する農業理解を進める必要がある。
- ・

(3) 子ども農山漁村交流プロジェクトとの取り組み経緯と現状

㈱農協観光グリーンツーリズム事業本部より別添資料を基に説明した。

- ・ 子ども農山漁村交流プロジェクトの位置づけと概要の説明があった
- ・ 小学校における農山漁村での自然学校、農林漁業体験の取り組みに当たっては、宿泊期間は以前2泊3日以内が多い。また民宿・民泊の利用は少ない。
- ・ 受け入れ地域の取り組みにおいては、平成22年度までに115モデル地域開発の実績があり、現在600を超える受け入れ候補地がある。
- ・ 教育効果に関しては、アンケート結果により3泊以上、少人数での宿泊が効果が高いことが示されている。
- ・ 農家民宿・民泊とも経済効果があるとしているが、地域コミュニティの活性化効果も同時に挙げられている。

(4) 検討する課題の抽出：事務局説明

第1回の目的の「課題の抽出」の為に事務局案として、以下の課題候補

別添資料に基づき説明した。

- ①都市農村交流を担当する JA 職員を対象とする研修等の実施
- ②学校への情報発信・広報機能の拡充
- ③JA だからこそ出来る農業・農村体験と学校側が必要とする  
教育的効果を取り入れたプログラムづくり
- ④地域外の学校の受入れを含めた JA 食農教育プランの策定
- ⑤都市と農村における相互の協力・支援体制の構築

#### (5) その他：JA 全中

課題抽出にあたり、参加者の意見を聞いた。意見集約をした結果下記のとおりであった。

- ・ JA 内での人材育成に関しては、共通認識として必要。
- ・ 学校に対する情報提供はさらに必要であるが、現状受け入れに手一杯であり広報活動もあまりできていない。
- ・ 全国連・旅行者による誘致活動が必要で、受け入れ側からの活動はあまりできない。
- ・ 抽出課題がかなり高度ではあるが、事務局で検討し、次回以降の検討のへつなげていきたい。

#### (6) 連絡事項・閉会

課題の整理と問題解決に向けて幅広い意見をいただきたい。  
次回以降、今回の議論を踏まえ、課題を絞り込み、解決方策の検討をしていきたい。

以上